

糖尿病について

平原内科・消化器科

平原 睦庸 先生

糖尿病の患者さんが増えていると報道されています。700万人以上が糖尿病と診断されています。糖尿病は急激に発症することもありますが多数の場合には自覚症状がなく進行します。そして合併症と呼ばれるさまざまな病気に至らせます。血管に悪い影響を与えて心臓病、脳疾患、腎機能障害、神経障害、目の病気などを引き起こします。診断されたときには合併症が進んでいることもあり注意が必要です。

糖尿病は放っておくと実際の年齢より年を取ってしまう状態になります。皆さん体も心もいつまでも若くありたいと願うのに糖尿病は早く年を取らせてしまうのです。自分で糖尿病かもしれないと思うときがあると思います。そんなことで悩んでいないで検診を受けてください。

糖尿病が疑われる場合には多くの場合に採血検査と検尿、医師による問診が行われます。必要があればさらにジュースを飲んで検査を行う糖負荷検査を行います。医師は患者さんに適正な食事療法、運動療法そして必要があれば薬物療法を始めます。薬だけが治療ではありません。食事と運動が大切です。

さらに糖尿病はがんと関係があることが分かりました。細かいことを説明すると多くの「2型糖尿病の原因と考えられるインスリン抵抗性はがんのリスク要因である」と説明されます。インスリンが血糖値の調節だけでなく細胞の増殖にも関係しているためです。糖尿病の人は糖尿病を持っていない人に比べて男性は1.27倍、女性は1.21倍がんにかかりやすいことが分かりました。具体的には糖尿病は大腸がん、すい臓がん、肝臓がん、子宮がんのリスクを高めます。また肥満と乳がんの関係も以前から指摘されています。皆さん検診を受けてください。バナナや通販の薬に頼る前に検診を受けましょう。